

システム名	医療情報DWHシステム(Web)	ユーザー	国立Sセンター
旧システムの問題点	電子カルテシステムの導入に伴い、診療用に加え研究用の電子カルテDWHの要求がセンター内部で高まり、更にはDICOMと紙カルテとの連携も視野に入れたシステムづくりが必要となってきた。また、研究用のため、患者個人情報に配慮したシステムとしての難題もあった。		
メリットなど	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテメーカーに依存しないシステムが完成し、低予算でシステムを発注することが出来た。 ・電子カルテ側から、汎用データ形式であるCSVファイルで定期的送信されるこのデータを保存担保することにより、将来電子カルテが他メーカーへリプレイスされても安心なシステムとなる。 ・患者IDなどの個人が特定される情報は、スクランブル化されて運用される。 ・電子カルテデータを、様々な医療項目で多角的に検索閲覧を可能とし、DICOM・過去の紙カルテとの連携が実現した。 		

導入システム（運用）などについて

